

資料 3

水害リスクを自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす 流域治水の自分事化をめざして

1. 背景

2. 課題

3. 流域治水の自分事化の取組方針

(1) 流域治水の認知度を高めることから始める。

・主に、①知ってもらう取組を進める。

(2) 認知と行動のギャップを埋めて「自分事化」を図る。

・主に、②他者を巻き込む取組、③理解し行動してもらう取組を進める。

(3) 持続的、効果的な取組としていく

・主に、④トッランナーの育成、⑤基準化を進める。

このようにして、幅を広げ、質を上げていくことを基本方針とする。

そして、国民運動化し、文化となっていくことを目指す。

4. 施策を進めていく上での着眼点と具体策

(1) 認知の拡大と伝え方の工夫

(2) 自分事化の機会創出と手段(対個人、対企業)

(3) ターゲットの把握と絞り込み(発信側、受け手側のそれぞれの属性)

(4) 主体的な取組が進むための環境整備(動機づけ、知恵の共有)

(5) 持続的に流域治水を推進(人々の意識、相互の連携、推進力)

5. 施策体系

① 流域治水を知ってもらう取組

② 他者を巻き込む取組

③ 理解し行動してもらう取組

④ トッランナーの育成

⑤ 基準化

※行動計画

○項目ごと、施策ごとに今度のスケジュールを可視化